

# 光鯨会だより

第32号 [令和4年8月]

発行 | 光鯨会  
会長 | 小野 徹郎 (S43)  
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)  
連絡先 | 伊藤 洋介 (MH17)  
☎ 052-735-5508  
✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内

## I | 会長挨拶

### □会長挨拶 「平和を願う心」

小野 徹郎 (S43) 光鯨会会長 / 名古屋工業大学名誉教授



このご挨拶が皆様へ届く頃には名古屋をはじめ全国的に梅雨明けしていることと思います。蒸し暑い季節になります。光鯨会会員の皆様には、お元気に各方面でご活躍のことと思います。

5月24日、光鯨会の評議委員会及び総会がハイブリッドで行われました。長谷川相談役、岡崎副会長をはじめ直接ご出席いただいた方々とは久しぶりお会いでき大変嬉しく思いました。長谷川相談役にはお元気でいつも光鯨会、名工大のことを心にかけていただき、適切なアドバイスをいただいております。今後とも相談役としてご指導いただきますようお願いいたします。本部に関しましては、井戸田本部長を中心に名簿管理に関する新しいシステムの導入などが計画され、この総会で年次報告、次年度計画で承認を得ることができました。

この2年間、世界中が新型コロナウイルスに振り回され、多くの困難な状況下を過ごしてきました。最近やっと自粛の風潮が緩んできて、元の生活を取り戻しつつあります。しかし一方2月にはウクライナでロシアの力による主権侵犯が始まり、悲惨な戦争が繰り返されています。やり場のない怒りが煮えかぎっています。ただただ戦争が終わることを祈り、寄付支援しかできない自分にどうしようもない虚しさを感じています。

また我が国ではこうした状況を受けて軍備拡張の議論がなされていることに違和感を覚えます。ここに石橋湛山氏の言葉を引用いたします。『我が国の独立と安全を守るために、軍備の拡張という国力を消耗するような考えでいったら、国防を全うすることができないばかりでなく、国を滅ぼす』と戦後発言しています。氏は戦前、日本の植民地であった満州と朝鮮の権益を捨てろといったことで知られています。ウクライナの戦争を受けて湛山氏の考え方をもう一度心に留めて冷静に国防について考える必要があるような気がいたします。

こうした困難な状況の中で人間が平和に生活していくには家族の絆をはじめ、多くの人との繋がりを持つことが重要です。同窓会もその繋がりの一つではないでしょうか。同窓会は同じ場所で同じ時期を過ごしたという見えない糸で結ばれているだけでも拘らず、ある時はその絆に助けられ、心が癒されています。大切にしたいと思います。

光鯨会の活動は会員皆様の会費で運営されています。多くの会員から浄財をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。しかし会費の納入率は、幾分増加傾向にあります。思うように進んでいません。毎度同じことを申し上げますが、私としてはなんとか30%は超えたいと思っています。是非、今後とも会費の納入をよろしくお願い致します。平和な世界のもと同窓の絆が深く結ばれますことを願ってやみません。

## II | 大学は今

### □分野長挨拶

楠原文雄 (TOK) 名古屋工業大学社会工学類副類長／建築・デザイン分野長／名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方には、常日頃より、学生および教員に対して温かいお心遣いをいただきますとともに、幅広くお世話になっておりますこと、教員を代表して心より感謝申し上げます。

教員の動向については、全学の役職員では、学長特別補佐（寄附金、同窓会担当）およびつくり領域長を河辺伸二教授（S59）が、学長特別補佐（キャンパス整備担当）を須藤美音准教授が、高度防災工学研究センター長を井戸田秀樹教授（S58）が務めております。

コロナ禍での大学も3年目に入りました。この6月より、ようやく学部の授業は対面が原則となり、キャンパスに学生が戻ってきたと実感する場面が増えました。また、一部制限は残っているものの、デザインスタジオの利用も再開・拡大され、デザインスタジオで設計製図の課題に取り組む学生の姿を見ることができるようになりました。

5月のGWには、学生の企画による建築・デザイン分野全学年の交流会が開かれ、約100

人の学生の参加がありました。建築・デザイン分野は、24号館のデザインスタジオで活動とともにしながら、同学年の学生同士、そして学年を超えて切磋琢磨できる環境に特色がございますが、新型コロナウイルス感染症拡大以来、こうした学年内や学年を超えた交流は乏しくなっております。2年以上ぶりに学生同士が広く集まり楽しそうに過ごす姿を目の当たりにし、学生同士の、あるいは教員も交えたつながりこそが大事であることをあらためて実感いたしました。

このような時世ではございますが、皆様方におかれましては、近くへお越しの際には、是非、気軽に母校の門をくぐっていただき、現役の学生や教員を叱咤激励いただければと存じます。



建築・デザイン分野全学年交流会にて(アスナル金山)

### □卒業生の活躍

高橋之 (DH23) 大同大学



2011年3月に社会工学専攻を卒業後、同年8月から2016年3月まで助教として名古屋工業大学で研究および教育に従事しておりました。その間、市之瀬敏勝先生のもとで鉄筋コンクリート構造に関する研究を行っておりました。その後、2016年4月より大同大学で勤務しております。

この度、「袖壁付き柱、腰壁および垂れ壁付き梁のせん断弾性剛性」という題目の論文で2022年日本建築学会奨励賞を受賞いたしました。私が腰壁付き梁の研究に出会ったのは、博士課程に進学した直後でした。当時、市之瀬先生が「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(RC規準)の2010年版の主査をされており、改訂内容に関する研究を行っておりました。RC規準に関する研究ということもあり、実務構造設計者と協働す

る貴重な機会をいただきました。その後、研究対象を耐震壁にして博士論文を執筆いたしました、私の博士課程は壁と向き合った3年間でした。その中で当時から気になっていたことを検討対象として執筆したものがこの論文です。

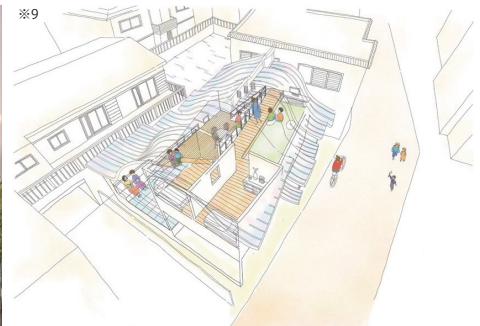
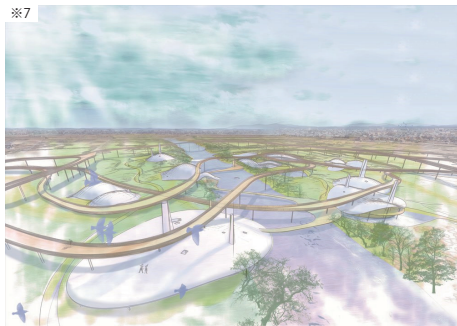
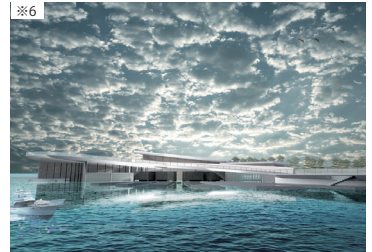
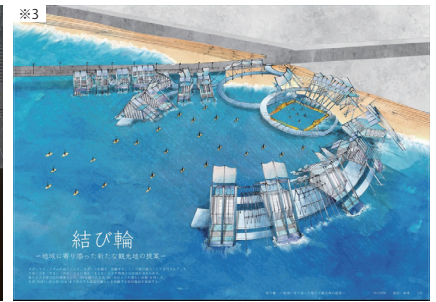
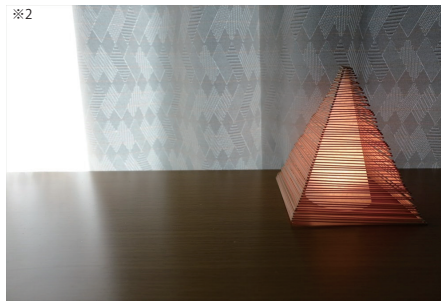
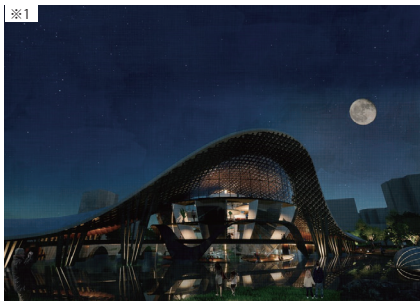
振り返ってみると、最初に腰壁付き梁の研究をしていた時に参照していた研究の中には、市之瀬先生が学生時代に行っていた研究もあり、月並みな表現ではありますが学問は先達の成果の上に成り立っていることを実感しております。光鯨会にご存じの通り長い歴史を有しており、それが大変価値のあることであることも再認識いたしました。私が現在取り組んでいる研究も、いつの日か若き光鯨会会員または未来の光鯨会会員の役に立つ日が来れば、これに勝る幸せはありません。その日を願いつつ、今後も研究に邁進してまいります。

## □学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

COVID-19 の影響が続き、デザインスタジオ・研究室での活動が制限される中、時勢にもまれながらも学生は数多くの成果を挙げました。光鱈会賞は渡辺安紀さん（建築系）※1「アカリとカタチー建築が照明となり変化するー」が輝きました。照明に関する卒業研究の知見を発展させた設計作品として高く評価されました。分野長賞は吉田早智子さん（デザイン系）※2「風の灯ー風を楽しむ照明ー」が受賞しました。こちらも卒業研究の題材である風鈴から着想された作品でした。また7点の佳作が選出されました。そのほか、学外のコンペ、研究発表においても多くの学生が表彰されました。学業優秀者を讃える光鱈会学生奨励賞は19名が受賞いたしました。

■光鱈会賞 | 渡辺安紀※1、分野長賞 | 吉田早智子※2、佳作 | 小田雅也、佳作 | 甲斐ひなの、佳作 | 杵川涼華、佳作 | 鈴木一史、佳作 | LEE CHANG YOON、佳作 | 原希望、佳作 | 中村肇 ■第27回JIA東海学生卒業設計コンクール2022: 金賞 | 濱田紗希※3、入選 | 渡辺安紀※1、入選 | 中山朋紀※4、入選 | 原希望 ■2021年度JIDA中部ブロックデザイン賞: 最優秀賞 | 中山朋紀※4、優秀賞 | 濱田紗希※3、特別賞 | 吉田早智子※2、コンセプト賞 | 日合貴大 ■NAGOYA Archi Fes 2022 中部卒業設計展: 小林有吾賞 | 濱田紗希※3、岡田憲久賞 | 中山朋紀※4、河合啓吾賞 | 原希望※5、西口賢賞 | 小田雅也※6、小田義彦賞 | 坂田美典※7 ■第9回ヒューリック学生アイデアコンペ: 佳作 | 谷俊栄・西川裕知・杉山莉奈・大崎拓実※8 ■2021年度第37回JIA東海支部設計競技: 銅賞 | 大久保芽依・亀山友花・三輪華菜子他※9、銅賞 | 梶田龍生・安井友輝・田中千裕・高橋萌※10 ■建築系愛知16大学共同企画展2021: 優秀賞 | 加藤唯・神野帆乃香 ■木の家設計グランプリ2021: 20選・ビルダー賞 | 佐藤直喜※11 ■2022年日本建築仕上学会: 奨励賞・卒業研究賞 | 林泉水 ■2021年度日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞: 材料施工 | 今岡智輝、材料施工 | 横田太志、構造 | 藤井一貴、構造 | 河内遥、環境 | 田住梓、建築計画 | 百合草美玲 ■第43回コンクリート工学講演会: 年次論文奨励賞 | 横田太志 ■日本建築学会大会(東海)学術講演会情報システム技術部門: 若手優秀発表賞 | 園部裕子 ■光鱈会学生奨励賞: 学部4年 | 杉原主哉、内藤拓途、吉田早智子、渡邊暉也、川瀬翔大、佐藤直喜、吉安祐樹、原希望、学部3年 | 原田沙和、浅井友徳、小松原治弥、岸夕海、安井友輝、学部2年 | 加藤拓実、室崎圭祐、渡辺愛菜、宮本奈枝、浅野祐輝、渡邊香帆 (敬称略)



### III | 卒業生は今

#### 奥田 崇 (H14) (株)大林組

大林組に入社して18年が経ちました。入社後、東京と名古屋で現場業務、その後、生産技術部門にて施工計画や仮設構造計算などの施工支援業務を行っていました。昨年までの3年間、中区錦の三菱UFJ銀行（旧東海銀行本店）の建替え工事で現場に復帰しておりました。建物の低層部には愛知県の伝統工芸である常滑焼の磁器タイルを採用、上層階の外装には石張りのマリオンを配置し、銀行建築ならではの量感を持った外観が特徴の建物です。1階には貨幣・浮世絵ミュージアムが入っています。貴重なものが数多く展示されていますのでご興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

現在は、支店の業務に戻りましたが、働き方改革に関連する業務のウェイトが多くなりました。現場へのICT技術の活用や機械化施工の推進をしています

が、現場の4週8閉所完全実現も遠くないところまで来ていることを実感しつつあります。将来の建設業の担い手を維持するためにも継続して改革を推進していきます。また、本年度から会社業務として名城大学にて建設施工学の講師をしています。次世代の建設技術者が育っていることを間近で感じており、将来の戦力になることを楽しみにしています。



三菱UFJ銀行名古屋ビル

#### 木田 脩太 (H25) (株)中建設計

名古屋市にある設計事務所、中建設計に入社して現在8年目です。意匠設計を専門とする10人程度の設計事務所です。創設者が名工大の卒業生であり、来年で創立50周年を迎えます。

これまで担当した物件は、認定こども園や短期大学、グループホームなど。上司に教わりながら、企画、基本設計、実施設計、申請、現場監理までを一通り経験しました。図面を描く上で、ここの納まりはどうなっているのか?と最初は戸惑うことばかりでしたが、今まで得た知識を少しずつ活かしながら、最近は図面が描けるようになった気がします。

現在は、豊田市にある病院の建替えの設計・監理を担当しています（右上イメージパース）。「病院らしくないホテルのような病院」をコンセプトに計画を進



めてきました。型に当てはめず、物件ごとに何かのテーマを持ってデザインを考えてく過程は、この仕事の楽しさでもあります。約1年間の設計期間を経て、今年の2月に着工しました。来年春の竣工が楽しみです。

#### 村松 信彦 (H26) 大和ハウス工業(株)

大学院卒業後に大和ハウス工業に入社して8年目となりました。配属は住宅系部門ではなく、建築系部門の流通店舗事業部設計部となり、これまでに物販店舗、倉庫、事務所、飲食ビル等、数々の物件を担当してきました。私が所属する事業部はいろんな用途の建物を対象としているため、若手のうちから、いろんなことを経験することができる良い点があります。その反面、多角的な知識を持つ必要があり、日々知識向上を求められる場所となっています。

最近ではRevitを利用し、三次元的に建物の設計を行っており、LUMIONを用いて視覚的提案まで行うようになっています。三次元的に設計する良い点と思っていることは、お客様に視覚的提案することで、

細かい部分までの意思の疎通が図れ、希望の建物を設計できることです。

今後も自己の成長とお客様の要望に応えるため、3Dの技量を高めるとともに納まりの知識を日々勉強して、自己の設計の可能性を広げていきたいと思っています。



## 橋本 泰彰 (H14) 東邦ガス(株)

東邦ガスに入社して18年目になりました。入社後、ガスをお届けする導管部門、お客さまにガス設備を提案する業務用営業部門、自社の製造設備や建物の建設・維持管理をする生産部門など様々な部署を経験してきました。

現在は生産部門に所属し、自社建物の新築・修繕を担当しています。今まで担当した案件のひとつとして、名古屋市港区での「みなとアクルス」の開発プロジェクトがあります。本プロジェクトは弊社工場跡地での再開発事業となり、「人と環境と地域のつながりを育むまち」をコンセプトとしたまちづくりを行っています。2018年9月にはI期開発のまちびらきをむかえており、私は電気・熱を供給する設備や業務用ショールームを備えたエネルギーセンターの新築工事を担当し、まちが少しずつカタチになっていくことに喜びを感じ

ました。

エネルギー業界でもカーボンニュートラルに向けた動きやコロナ禍を契機とした急速なデジタルシフトなど、環境変化に伴う課題が多くあります。これら課題に真正面から向き合い、人々の暮らしと産業をエネルギー面からサポートし、地域の発展に貢献していきたいと思っています。



エネルギーセンター 外観

## 梅田 萌 (H29) 名古屋市役所

学部を卒業後、名古屋市役所に入庁し、交通局へ配属となりました。現在所属している施設部営繕課では交通局が管理している駅や営業所等の設計・工事を行っています。様々な工事がある中で、私は主に駅のトイレリニューアル工事を担当し、名古屋駅・東山公園駅・大曽根駅のトイレの改修を行いました。工事は営業中にお客さまがトイレの利用に困らないよう、一般トイレと多機能トイレを交互に閉鎖して工事を行った駅もありました。また関係各所や工事業者との調整など、難しいと感じる部分も多くあります。しかし工事が終了し、「綺麗で使いやすくなった。」という声をいただくこともあり、やりがいを感じています。

5年目の現在は駅全体のリニューアル工事を

担当することとなりました。今まで以上に多くの知識や各所との調整が必要になり、私にはまだまだ厳しい仕事だと感じていますが、これからもお客さまが快適に利用していただける施設になるよう、日々業務に励みたいと思っています。



東山公園駅のトイレ (左：改修前、右：改修後)

### □2021年度年会費納入者、新規終身会員加入者、寄付者 2021/12/8～2022/6/28にお手配くださった方を記載(敬称略)

年会費納入者 [S43] 伊藤 晃、[S44] 柳沢 由紀子、[S45] 西村 正和、[S46] 呉屋 守将、堀井 國雄、[S47] 石田 進、鈴木 讓二、難波 剛、[S48] 小林 真澄、[S50] 岡本 光生、[S52] 末永 俊彦、[S54] 濱村 一雄、[S55] 浦野 敏晴、[S56] 岩下 幹夫、[S57] 磯貝 勇壽、田邊 太一、中西 良直、服部 豊、花井 勉、[S61] 坂本 拓三、[H1] 生本 孝幸、[H2] 佐橋 政人、鶴田 徹、寺西 敦敏、[H4] 半谷 公司、[H5] 羽生田 剛成、六嶋 敬子、[H6] 宮崎 芳徳、[H8] 堀口 裕司、[H24] 三井 和也、[H25] 木田 脩太、山崎 航一、[H26] 山崎 香菜絵、[H30] 稲垣 好美、[H31] 加東 豪、高田 誠、[R2] 杉本 夕佳、[R3] 中西 優介、藤川 真、宮川 詩布、[MH7] 荒木 孝一、[MH22] 崔 明姫、寄付納入者 [S24] 大塚 一三、[S48] 森 雅幸、[S57] 磯貝 勇壽、[H2] 寺西 敦敏  
※ 郵ボックスへの寄付は随時受け付けております。

## □関東支部

### 田中 薫 (H2) (株)大林組

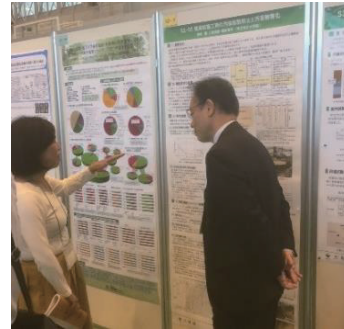
昭和 63 年卒業・平成 2 年修了の田中です。卒業後は大林組に入社し、今、東京本店建築事業部で土壌汚染に係る調査、対策等を主に担当しております。平成 15 年の土壌汚染対策法の施行を受け、土壌汚染に係る専門家となるべく配属されて以来 20 年、奥が深く、専門家と呼ばれるのに相応しい知識と経験を得ようと日々勉強中です。

入社後 13 年間、原子力関連施設の耐震検討・設計等を担当し、その間、国の原子力安全委員会に技術参与として勤務もし、ずっと原子力に携わっていく思いでおりましたが、37 歳で突然、新しい分野へ飛び込みました。

当初、土壌汚染に係る業務は土木部門が担当という意識が高く、建築部門に相談できる方がおらず、相談先は環境省、行政そして社内土木部門の詳しい方々でした。幸い、土壌汚染対策

法の施行直後で、行政も施主も施工者も手探り状態で一緒に勉強して理解を深めていける環境にあり、法と一緒に成長してきた気がしています。研究開発も積極的に取り組んできました。

専門分野は自分がやらなければという意識を強く持ってきた 20 年です。今後は後輩への指導もしっかり行いつつ、まだまだ頑張ります。



地下水・土壌汚染防止研究会集会ポスターセッション (2017 年)

## □関西支部

### 竹内 健一 (H3) (株)フジタ

関西とは縁のなかった私が、入社 4 年目に関西に転勤して早 20 年。阪神淡路大震災後の復興住宅、物流倉庫、再開発等の意匠設計者としてこの地で厳しく育てていただきました。

2000 年に当時の上司に誘われ企画営業部に異動、より川上の立場でコンペ、企画提案、開発案件等様々な営業に携わり、設計の時以上に充実した日々を過ごしています。昨年より企画営業部の責任者として部の運営と、引き続き「図面の描ける建築営業マン」として顧客満足を追求しています。

40 歳過ぎから、光鯨会に参加するようになり、名工大OBの皆様と交流する機会を頂き、いつも刺激を得ています。また皆様にアドバイスを頂きながら営業に取り組んでいます。

会社は今どんどん海外に進出しており売上の 2

割が海外という状況です。私もいつかは海外の可能性はあるわけですが、異国の様だった関西に今ではどっぷりつかり、また甲子園に住んでいるため「燃えよドラゴンズ!」より「六甲おろし」ばかり聞く毎日を過ごしております。



2010 年改修の甲子園球場は、蔦がずいぶん伸びてきました。

## V | 光鯨会は今

### □本部だより

山川 博幹 (S60) 前本部幹事長 / (株)中部新都市サービス



2020年から2年間、幹事長を務めさせていただきました山川です。任期中、光鯨会事業の実施にあたっては、皆様方、特に幹事の方みなさんには多大なご協力をいただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、私が幹事長に就任したタイミングは、コロナ禍が拡大していく時期にピタリと一致し、幹事会はずべてオンライン、各種事業も中止あるいは延期という、これまでにない運営を余儀なくされた2年間でした。幹事会の運営では、どうしてもオンラインに慣れることができず、十分な議論ができなかったことが大きな反

省点です。そして、なにより幹事の方みなさんとお酒を飲む機会が設けられなかったこと、これが残念でなりません。

また、光鯨会の力を知った2年間でもありました。見学会の開催には、多くの方々の協力が必要ですが、その要所要所に光鯨会会員がいて、助けていただけなのです。見学会自体が光鯨会会員の力でできあがっていくのです。本当にありがたい、自分も光鯨会の会員で本当によかったと、しみじみ感じました。

これからポストコロナに向けて、光鯨会も動き出します。今後とも、みなさまのご支援よろしくお祈いします。

松田 浩司 (S60) 新本部幹事長 / 大成建設(株)



山川前幹事長の後を受け、今年度の幹事長を賜りました松田です。S60 卒で山川さんとは同級生です。

コロナも少し落ち着き、5月10日幹事会が、対面とZoomによるハイブリッドで開催され、5月14日には、久しぶりの見学会が実開催、評議員会もハイブリッドで開催と、with コロナですが、幹事会活動が復活できそうな様子です。前任の山川さんには申し訳ありませんが、少しわくわくしております。

私は入社後、主に施工管理をしながら幹事会に参加し、8年前に営業に異動してから幹事会に再参加し、統括営業部長になって副幹事長、そして今回、幹事長と、光鯨会での交流の中で一緒に成長させて頂いたと卒業生として感謝しています。

幹事長としては、先輩方々が築いてきた歴史を引き継ぎ、卒業生など後輩達の活躍の場を広げ、後輩たちももっと親しみやすい会とし、母校の繁栄と光鯨会の皆様のご活躍を少しでも後押しできるよう尽力させていただきます。皆様にもぜひご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

### □春の見学会

加藤 茂裕 (S62) 本部副幹事長 / トヨタT&S建設(株)

5月14日(土)春の見学会に33名が集い、今回はイオンモール Nagoya Noritake Garden のオフィス棟 (BIZrium) を中心に日本初のオフィス併設型ショッピングモール開業の経緯を学びました。まず施工を担当された大成建設(株)下山様から施設概要をご紹介頂き、名古屋駅北のノリタケの森地区再開発計画として「風景とつながる 緑が重なる 新たな顔」の外観デザインコンセプトから始まり、工期短縮やコスト低減策まで一連の取組みをご教示いただきました。続いてイオンモール(株)佐藤様より暮らしに寄り添うイオンモールだからこそできる「ワークとライフの壁を壊したトータルサービス」としてのテナント誘致戦略を解説していただきました。



〈BIZrium 名古屋 4階 Meet up Avenue〉

## □関東支部だより

末廣 晃一 (S58) 関東支部長／(株)大林組



皆様、お疲れ様です。関東支部長の末廣です。

コロナ禍がやっと収まって来ました。ゴールデンウィーク明けに一山来るという報道から、気を付けていたのですが、予想より山は高くなり、長く開店休業状態だった関東支部も、11月末の支部総会に向けて動き始めました。ところが、この原稿を書いている7月初旬においては、コロナウイルスの感染者数が急激に増加中であり、「第7波」という言葉も踊っています。

昨年に引き続き中止になってしまうと、2年の任期の間、何もせずに次の支部長に引き継ぐ事にもなり、なかなか心地良いものではありません。

毎回コロナの事ばかり書いていますが、前回本欄を書いてからも、ウクライナあり、物価高騰あり、エネ

ルギー問題あり、そして参議院選挙と世の中は中々賑やかです。

特にエネルギー問題は、私が携わる原子力のお仕事に大きく影響します。東日本大震災以降は、もっぱら日本中の原発や原子力施設を動かすために、原子力規制庁の審査資料を作成する毎日です。こと原子力というと、色々な考え方をお持ちの方がおられて、書きにくいところもあるのですが、日本は今、毎年3兆円以上の原油を、ただ燃やすため買っています。そこにある原発を動かすだけで、これらの費用が浮き、電気料金も上がらないと思うと、何とももったいない話です。

何より、20年以上携わっている原子力施設は、私のサラリーマン生活の間には、稼働しそうにないところが悲しいですね。

〒108-8502 東京都港区港南 2-15-2 品川インターシティ B 棟  
(株)大林組 (03-5769-1111)  
関東支部長 末廣晃一 (S58)、副支部長 吉井正行 (S58)  
事務局 鈴木孝彦 (S59)、連絡担当者 田中薫 (S63)

## □関西支部だより

田邊 太一 (S57) 関西支部長／大手前大学

今年度から2年間、関西支部長を努めさせていただきます田邊と申します。昭和57年(1982年)に卒業(福知研究室)後、(株)鴻池組にて38年間、構造設計関係の業務に携わって参りました。2018年に鴻池組を退職し、現在は、兵庫県西宮市にある大手前大学の建築&芸術学部で教鞭を取っています。

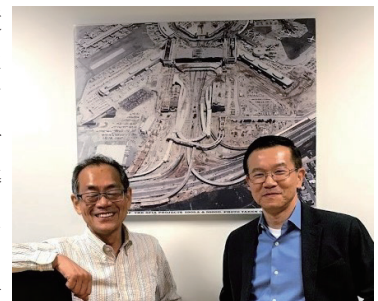
はじめて光鮎会の活動に参加したのは40歳の時です。怖い先輩(上司)の計らい(命令)で、ひと回り以上も年長の大先輩方に交じって関西支部の定例会に出席していました。時間を作って会議に出席するのは大変でしたが、社会で活躍されている先輩の話を身近に聞いたのは幸運でした。長谷川先輩(光鮎会相談役)が『仕事ができるのは当たり前、同窓会等の社外活動にも尽力し、人脈を広げて一人前』と話されていたのを今でも覚えています。

建設会社から大学に転職し、60歳を過ぎても学生の指導といったやり甲斐のある仕事を続けさせていただけるのも、母校での学びや先輩の薫陶のおかげです。神澤副支部長、竹内事務局長をはじめ、事務局の皆様の協力を得て、少しでも母校へのご恩返しができるかと考えております。

2019年に23年ぶりに、海外留学先のサンフランシスコを訪れました。研修先のS.O.M サンフランシスコ事務所で一緒に働いた、ピーター・ユウ氏(現在、構造設計事務代表)と23年ぶりに再会しました。また、

氏と一緒に免震構造採用の検討を行ったサンフランシスコ国際空港の新ターミナルビルの竣工した姿も、息子に見せることができました。

建築に携わる仕事ができ良かったとしみじみ感じております。



私(左)とピーター氏(右)  
(ターミナルビル工事写真の前で)



サンフランシスコ国際空港第2ターミナル(息子と私)

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42  
大手前大学 建築&芸術学部 (0798-34-6331)  
関西支部長 田邊太一 (S57)、副支部長 神澤宏明 (S58)  
事務局 竹内健一 (H3)、連絡担当者 山崎航一 (H25)